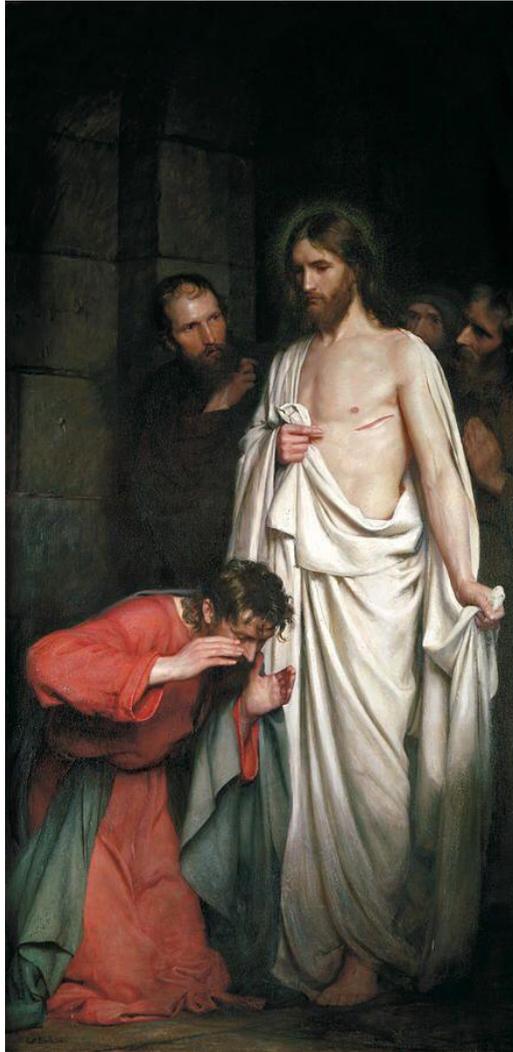


2022年4月24日 説教「信じる者になれ」

ヨハネの福音書 20章 19～29節

マグダラのマリヤは、目の前に復活の主がいたのに、すぐにはわかりませんでした。「マリヤ」と声をかけられ、彼女は「ラボニ」（先生）と応えました。



カール・ハインリッヒ・ブロッホ

1. 復活の主の顕現 (19～23)

- ①平安があるように (19)「その日、すなわち週の初めの日の夕方のであった。弟子たちがいた所では、ユダヤ人を恐れて戸がしめてあったが、イエスが来られ、彼らの中に立って言われた。『平安があなたがたにあるように。』」マリヤが復活の主に出会った日曜日の夕方。弟子たちが集まっていた所は、クリスチャンを警戒するユダヤ人の嫌がらせがあるのではと、戸が閉めてありました。戸を開けることもせず、復活の主は現れて下さいました。その時のお言葉は「平安があなたがたにあるように」でした。それは、単なる挨拶の言葉ではありませんでした。平安（シャローム）が弟子たちをはじめとする、心を騒がせやすい人間にとって必要であることを覚えてのお言葉でした。
- ②手とわき腹を示し (20～21)「こう言ってイエスは、その手とわき腹を彼らに示された。弟子たちは、主を見て喜んだ。イエスはもう一度、彼らに言われた。『平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。』」イエスがご自分の手とわき腹を示された、というのは十字架上で釘を打たれた手の跡と、兵士に槍で腹を刺された跡を、お見せになったということです。確かに、十字架につけられた主が復活されたのだということがわかり、弟子たちは喜んだのです。そして、もう一度「平安があるように」と言われ、弟子たちを福音宣教の働きに派遣すると宣言されたのです。
- ③罪を赦す (22～23)「そして、こう言われると、彼らに息を吹きかけて言われた。『聖霊を受けなさい。あなたがたがだれかの罪を赦すなら、その人の罪は赦され、あなたがたがだれかの罪をそのまま残すなら、それはそのまま残ります。』」その上で、弟子たちにイエスは息を吹きかけられます。聖霊が風（プニューマ）という意味を持つことの故に、主の口から出る息は象徴で、彼らに聖霊を受けるようにと命ぜられたのです。そして、隣人の罪を赦すようにと教えられます。復活の主は弟子たちに罪の赦しという、根本問題はそのままにしていれば残るし、赦すならば、その罪は赦されていくという真理が伝えられたのです。

2. トマスと他の弟子たち (24～25節)

- ①トマス (24)「十二弟子のひとりで、デドモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたときに、彼らといっしょにいなかった。」さて、弟子た

ちが復活の主に出会ったときに、デドモ（ふたごという意味）と呼ばれていたトマスは、皆と共にいることができませんでした。ここに12弟子の行動というものを垣間見ることができます。つまり、12弟子達はまとまって行動することもあれば、個人の事情に従って行動することもあったようです。それは当たり前のことかもしれませんが。あのペテロにしても、ユダにしても、個人的な行動や発言が大きな問題となりました。

②主を見た(25)「それで、ほかの弟子たちが彼に『私たちは主を見た。』と言った。」ここでは、トマスが皆とともにいなかったことが、問題が生じました。というのも、ほかの弟子たちが、「私たちは主を見た」と証言したからです。思いもよらないことがトマスに伝えられたのです。十字架にかけられ死に、埋葬されたことは、他の弟子たちと共通認識があります。今後どうするのかというようなことも共に考えてきました。ところが、「主を見た」と言って、主の復活を語るほかの弟子たちのことばはトマスにとって驚きでした。

③信じません(25)「しかし、トマスは彼らに『私は、その手に釘の跡を見、私の指を釘のところに差し入れ、また私の手をそのわきに差し入れてみなければ、決して信じません。』と言った。」自分だけ取り残されたような気がしたかもしれません。また、元々の性質が顔を出してきたのでしょう。手に釘の跡を見て、手を差し入れ、わきの傷も確かめないことには、とても信じられないと頑固に主張したのです。

3. 八日後に(26~29節)

①トマスもいる中に(26)「八日後に、弟子たちはまた室内におり、トマスも彼らと一しょにいた。戸が閉じられていたが、イエスが来て、彼らの中に立って『平安があなたがたにあるように』と言われた。」それから八日後の日曜日。今度はトマスも皆と室内にいました。状況は同じで戸は閉まっていた。そこに、復活の主が再び現れてくださったのです。三回目の祝祷でした。「平安があるように。」トマスはどんな心持ちだったでしょう。頑固に主の復活を信じないことを主張し続けていたのですが、目の前には、確かに主がおられるのです。

②信じる者に(27)「それからトマスに言われた。『あなたの指をここに付けて、わたしの手を伸ばして、わたしのわきに差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。』」主イエスは、トマスが問題にしている、手とわき腹をお見せくださいました。釘で打ち抜かれた手を触らせ、わきにも手を入れて確かめさせました。十字架にかけられて死に、葬られた主が、ここに復活してここにおられる！ということを実感したことでしょう。主は言われました。「信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」心に強烈に

迫ってくるお言葉でした。

③私の主、私の神(28~29)「トマスは答えてイエスに言った。『私の主。私の神。』イエスは彼に言われた。『あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。』」彼の信仰告白は、体全体と頑な自己というものが砕けていくような時であったと思われる。主の前に額づくしかなかったでしょう。「私の主、私の神」。もはや何も疑う余地もない。ただ主の前に、へりくだって告白するだけでした。主のお言葉は続きます。「見たから信じたのですか。「見ずに信じる者は幸いです」。

《結論》4月は主の復活を覚え、今週も前回学んだ次の箇所を読んでいきます。

今朝の聖書箇所には12弟子達に復活の主が現われ、平安があるようにとの御言葉が与えられたこと、その時に聖霊を受けること、罪を赦すことが教えられました。復活の主は、主の祈りでも教えられましたが、罪の赦しについて述べられたことにまずは注目しましょう。それは十字架上の主が「父よ。彼らをお赦してください。彼らは何をしているのか、自分でわからないのです。」(ルカ23:34)と言われたことにもつながってきます。つまり、十字架と復活の主が言われた罪の赦しは、福音の根幹にあることを覚えたいのです。そして今、あなたが赦せないでいる人があることを思い出されるのであれば、赦しましょう。御霊なる神がそこに働いてくださいます。そしてこそ、主が十字架に上って死なれ、よみがえってくださったことが、具体的な意味となって、私たちの生きることに繋がってくると覚えたいのです。赦しましょう。そうすれば罪の赦しと、平安がもたらされるからです。今朝の聖書箇所のもう一つの重要な事は、トマスという主の弟子に起きた出来事です。トマスは良い意味で言えば、求道心に富んでいると言えます。主の行く道について述べられた時に、「わからない」と率直にトマスが伝えたことで、「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです」(ヨハネ

14:6) とうい御言葉が与えられました。今回も、他の弟子達が復活の主に出会った時に不在であったことで、彼は主の手とわき腹を見て、さわらなければ信じないと述べました。その結果、再度現れてくださった復活の主から、手とわき腹を示されました。加えて、「信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」(27節)、「あなたは見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです」(29節)という御言葉をいただいたのですから、彼の実証的で、容易には信じない求道心が用いられて、大いなる恵みにつながったということは確かです。

しかしもう一方で、トマスのうちにあった問題にもメスが入れられなくて

はなりません。彼には他の弟子たちが復活の主に出会ったことを聞いた時

に、ちょっとした妬みがあったのではないのでしょうか。自分だけどうしてという思いがあったでしょう。今年の御言葉のガラテヤ書5章にある肉の思いです。彼が「見るまでは信じない」と言ったのは、肉から来た頑さにも関係していたのではないのでしょうか。主が「信じない者にならないで、信じる者になりなさい」と言われたのは、トマスの頑固な心を悔い改めて、御霊なる神のお取り扱いを受けることを教えておられるのです。「御霊によってあゆみなさい」と主はここでも示されているのでしよう。

「教会の交わり」でも記した、CSルイスは「死人がよみがえるとき、それは逆転の奇跡である。・・・新しき創造の奇跡はどれ一つとして、復活から切り離されて考察しうるものはない」と記しています。新しい創造の出来事は、あなたが復活の主を信じる時に起こされていくのです。復活の主に出会ったトマスと共に、私達も肉なるものを砕いていただいて、主の前に出させていただきます。そこにあなたの内に新しい創造が始まるのです。